

障がい者の実態・ニーズ調査の結果（三朝町）

1 調査の目的

障がい者の実態とサービス等に対するニーズを把握し、町障がい者計画及び障がい福祉計画の作成、今後の障がい福祉施策推進のための基礎資料を得ることを目的とする。

2 調査対象者

調査対象者は、原則として満65歳未満の在宅障がい者とする。

ただし、身体障がい者・知的障がい者であって障害福祉サービス（介護給付費等）の支給決定を受けている者及び精神障がい者並びに難病患者については、65歳以上も調査の対象とする。

区分	調査対象者
①身体障がい者	65歳未満：身体障害者手帳所持者（全数） 65歳以上：障害福祉サービスの支給決定を受けている人（全数）
②知的障がい者	65歳未満：療育手帳所持者（全員） 65歳以上：障害福祉サービスの支給決定を受けている人（全数）
③精神障がい者	入院患者及び通院患者
④難病患者	特定疾患医療受給者証所持者

参考【町対応分】 ①身体障がい者 58件
②知的障がい者 29件

3 調査方法

全県にて一斉実施

1 身体障がい者・知的障がい者

【在宅者】町から対象者へ調査票を郵送

【施設入所者】県から施設へ調査票を郵送

2 精神障がい者

県から医療機関へ調査票を郵送

4 調査期間 平成26年6月10日～6月25日

5 調査基準日 平成26年6月1日

【実態・ニーズ調査結果検証】

介助者

主な介助者は、28%（18人）が父母等、次いで22%（14人）の方が配偶者と回答されています。介助者の性別は49%（24人）が女性となっています。

生活

現在では81%（78人）の方が家族と生活されており、将来的にも68%（65人）の方が家族と暮らしたいと思われているようです。次いで13%（12人）の方は一人で暮らしたいとなっています。いろいろな生活スタイルに合った支援が必要と考えられます。

在宅生活を続けるために必要な支援

多くの方が経済負担への支援を求められています。また、在宅医療、在宅サービスの必要性も多いようです。

外出

外出の目的は、買い物が一番多く、次いで医療機関、通勤通学となっています。外出の際に困る事では、地域性もあり公共交通機関の不便さが多くなっています。次いで、体調の変化が外出に大きく影響することもわかりました。困り感を解消できるような福祉施策の充実が求められます。

金銭管理

全て自分で出来ている方が多く、次いで家族が管理されている方が多いようです。家族等が管理されている方は、今後、成年後見制度などの利用も見込まれます。

余暇

本町の状況では、余暇にスポーツ、芸術活動をされる方は少ないことが表れていますが、一部では毎日取り組まれている方もおられます。

情報

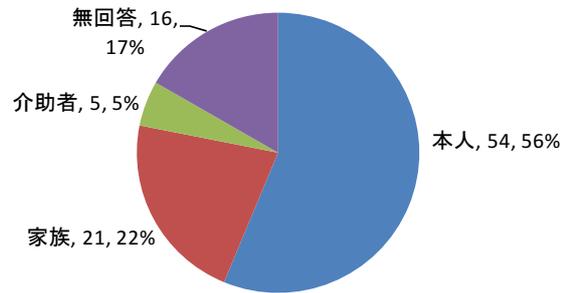
日常情報の入手先は、本や新聞TVが最も多く、次いで家族・知人となっています。行政広報は3番目であり、今後も行政からの広報に努める必要があります。

充実してほしい情報は、福祉関連情報、医療関連情報と生活に繋がる情報は重要なことがわかります。

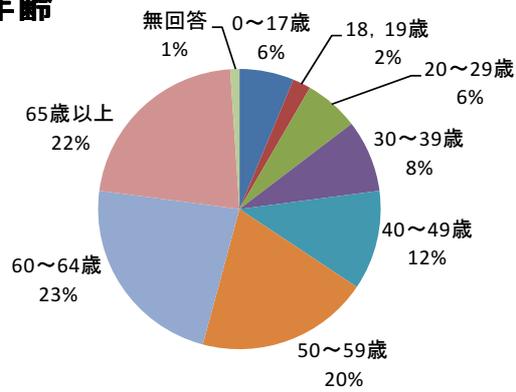
困りごと

困りごとの多くは、健康や医療であり、次いで自分自身の老後についても悩まれているようです。相談相手の多くは家族親戚、次いで医師看護師となっていますので、相談窓口としては身近に感じられることが必要な要件となっています。

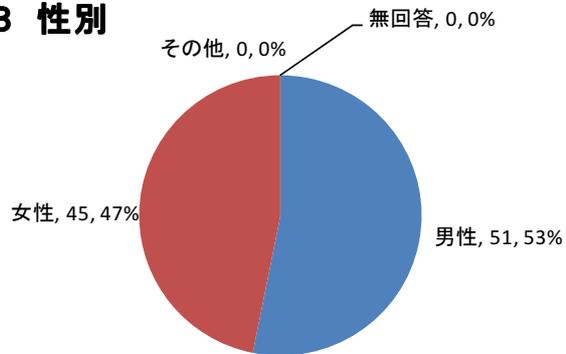
問1 回答者



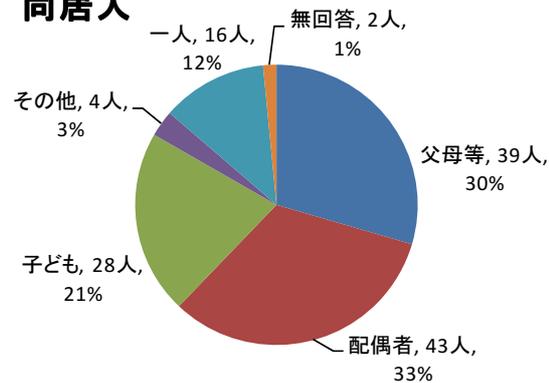
問2 年齢



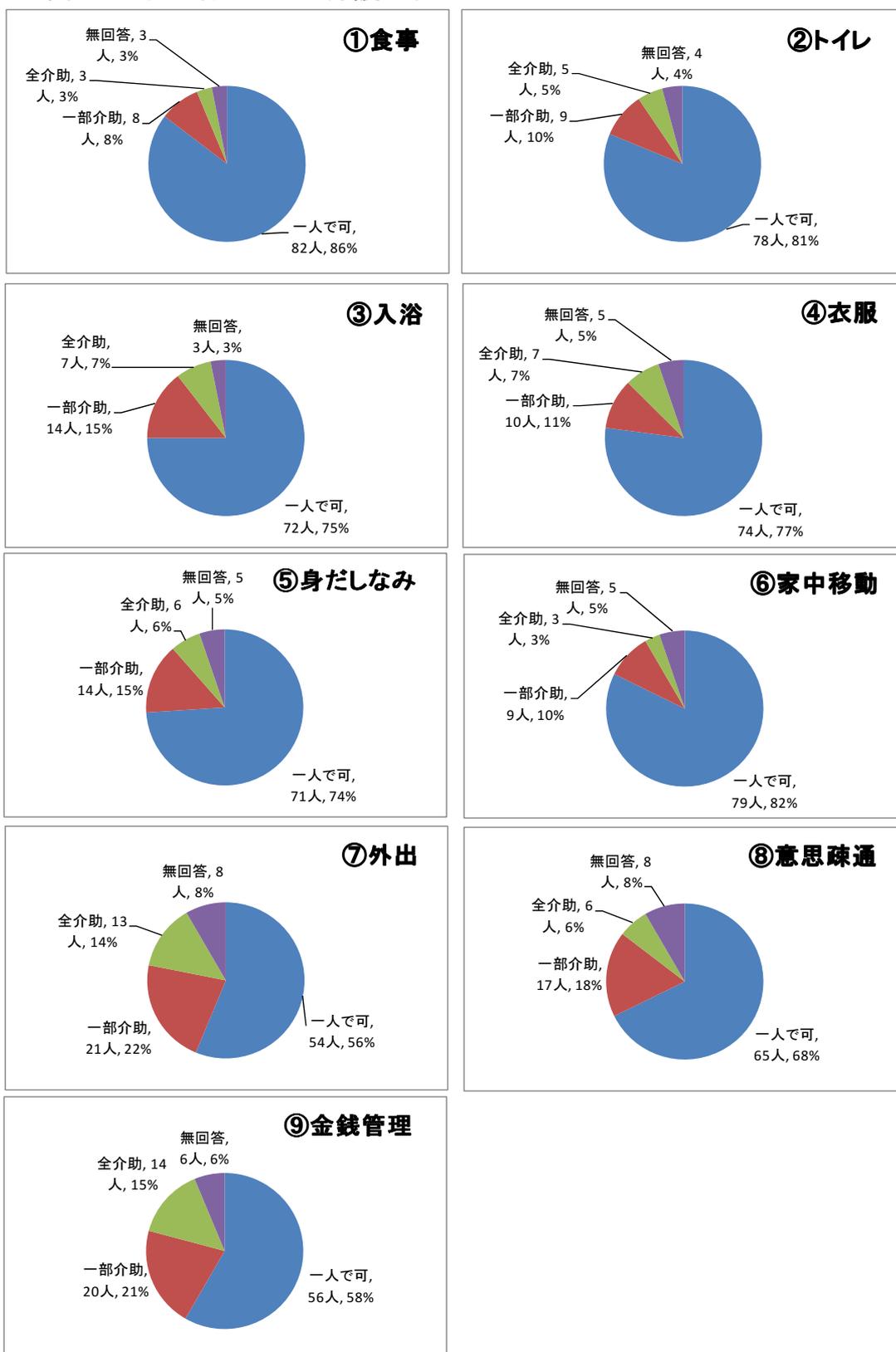
問3 性別



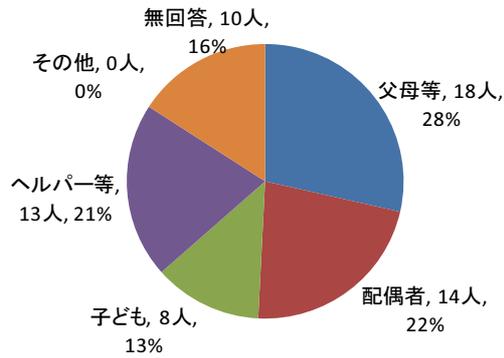
問5 同居人



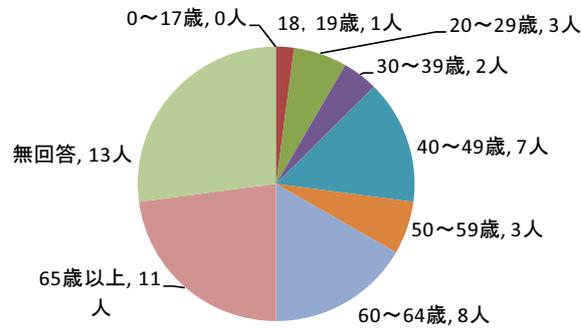
問6 日常生活における介護の状況



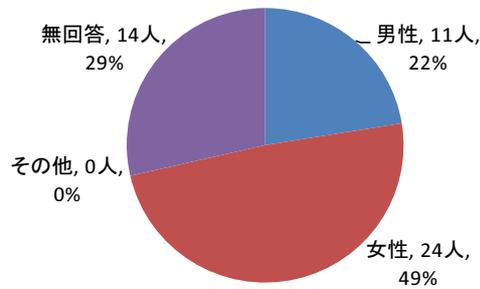
問7 主な介助者



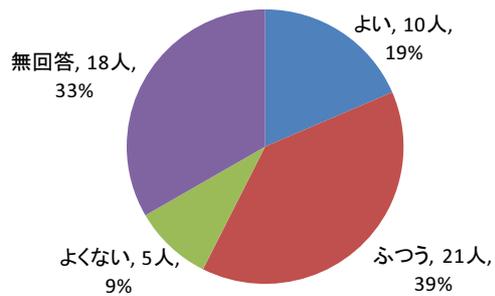
問8 中心介助者 ①年齢



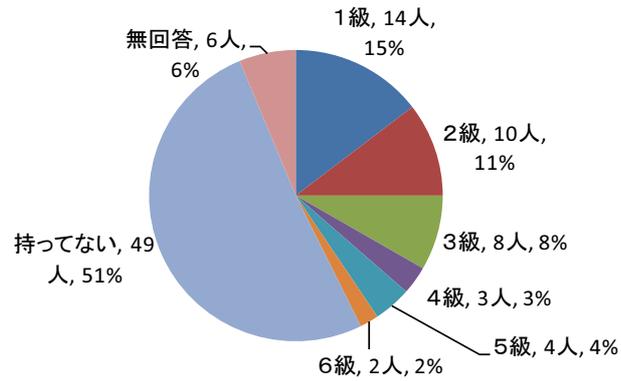
問8 中心介助者 ②性別



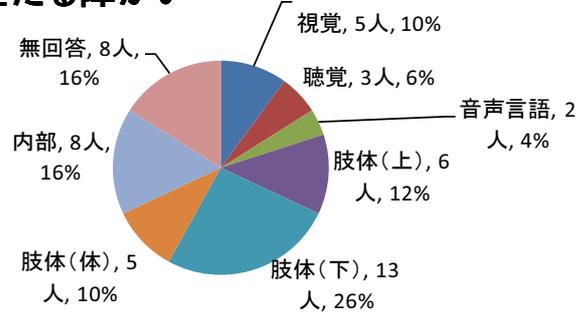
問8 中心介助者 ③健康



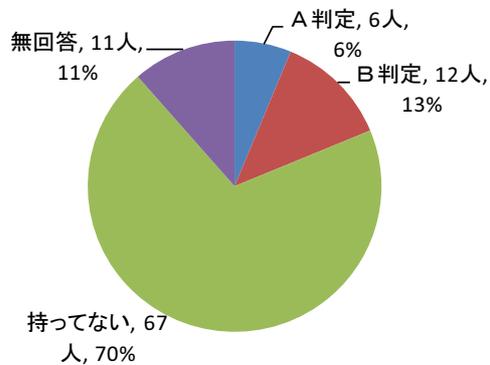
問9 身障手帳の所持



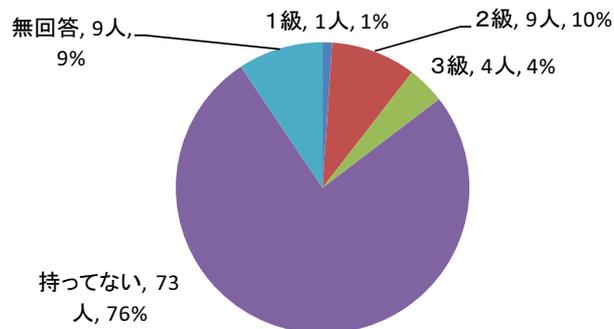
問10 主たる障がい



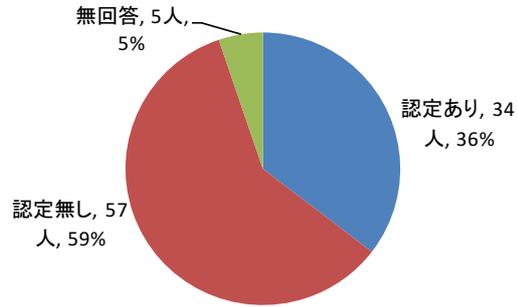
問11 療育手帳の所持



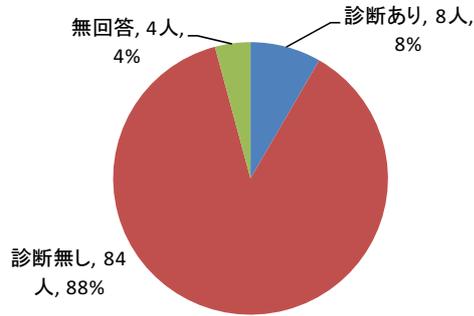
問12 精神手帳の所持



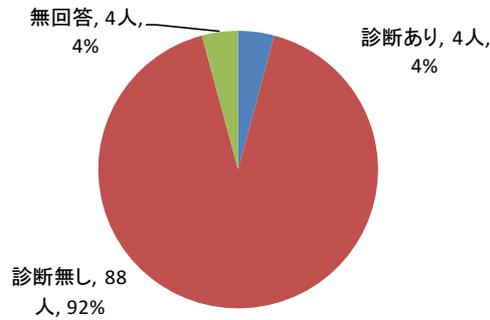
問13 難病認定の有無



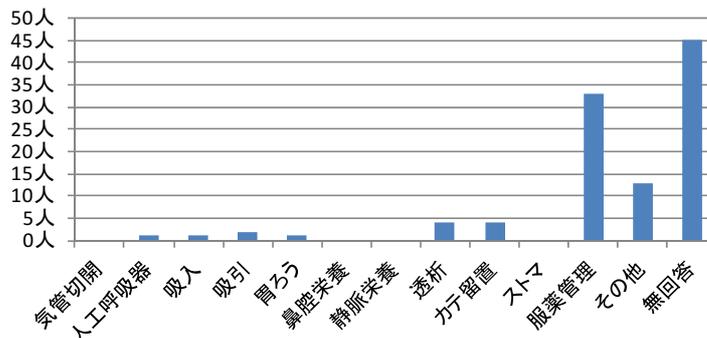
問14 発達障がい診断の有無



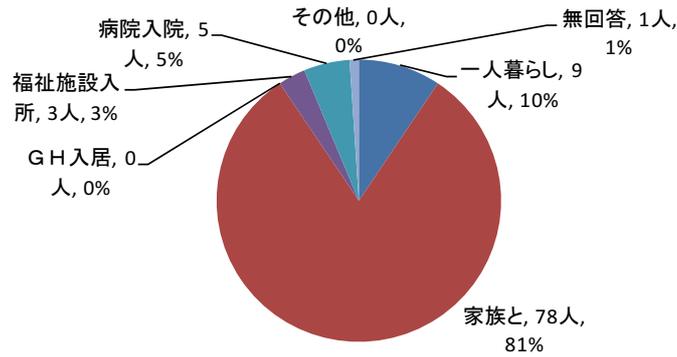
問15 高次脳機能障がいの診断の有無



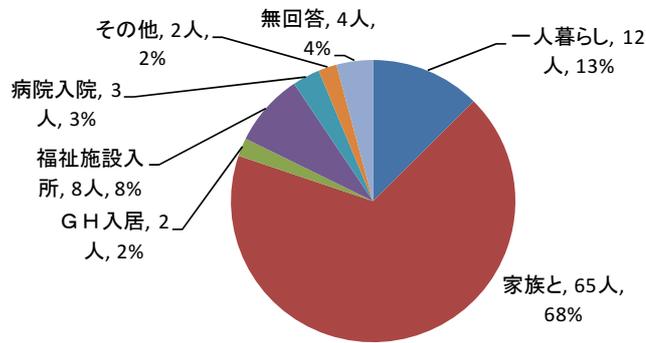
問16 受けている医療ケア



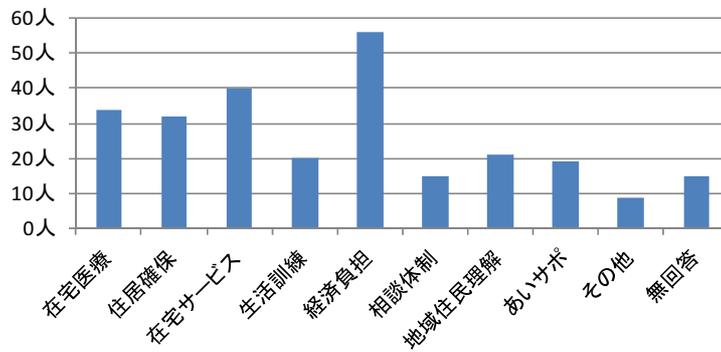
問17 現在どのように暮らしているか



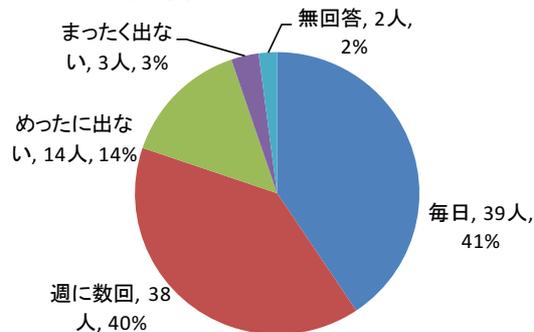
問18 将来どのように暮らしたいか



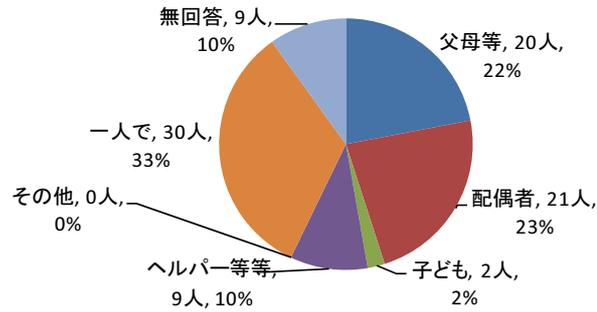
問19 在宅生活を続けるために必要な支援



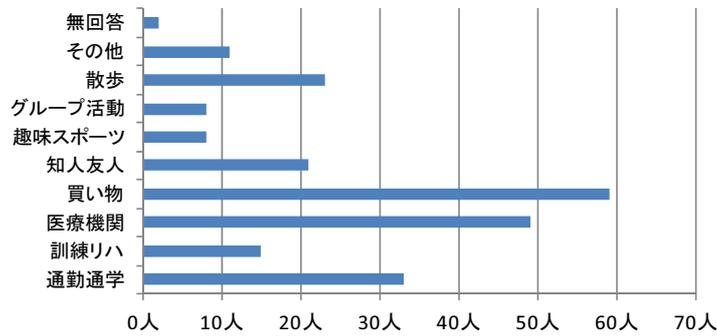
問20 外出の頻度



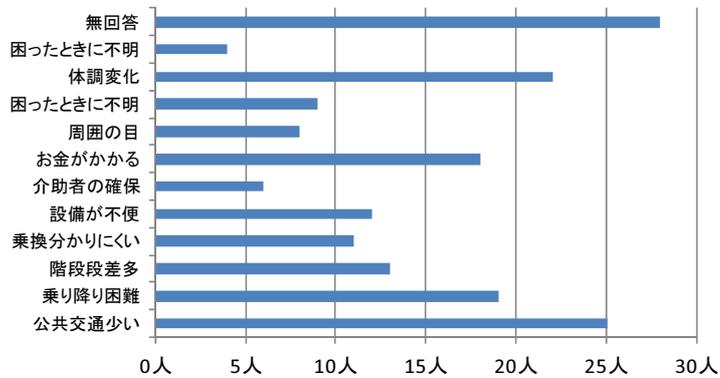
問21 外出の際の主な同伴者は



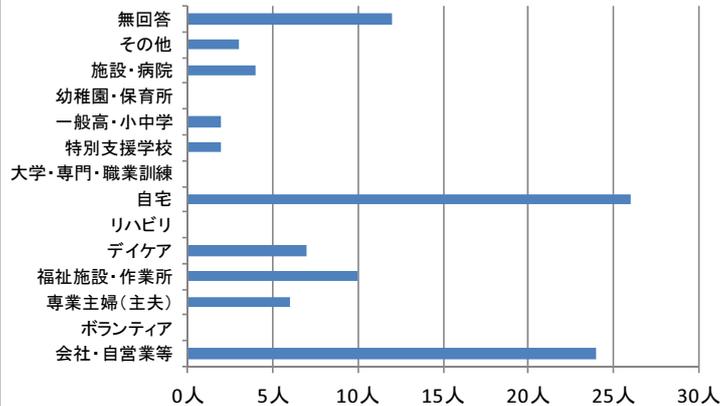
問22 主な外出の目的



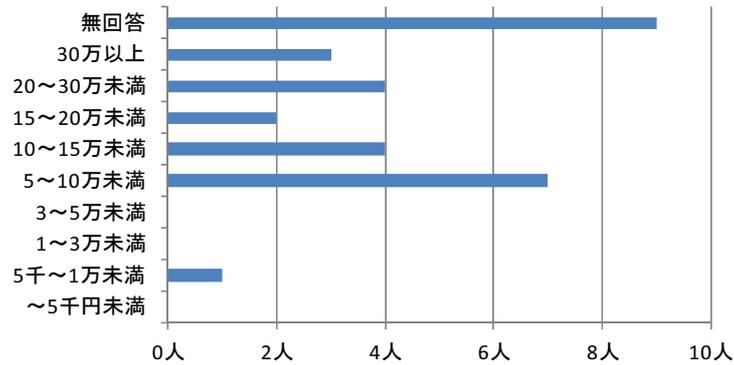
問23 外出の際に困ること



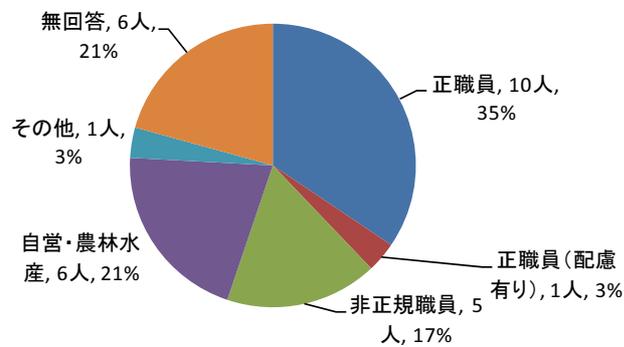
問24 日中の主な過ごし方



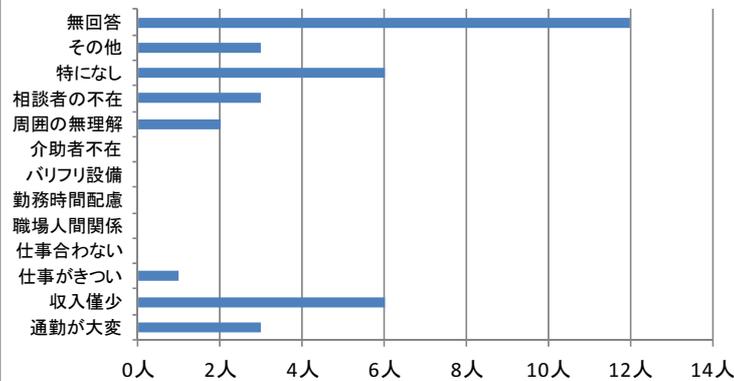
問25 1ヶ月の収入額



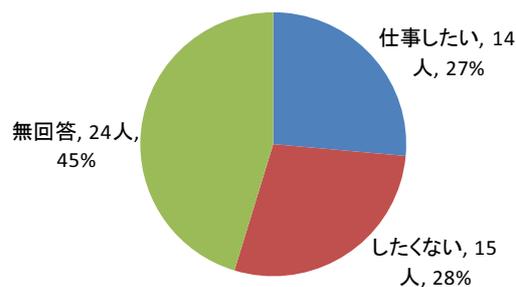
問26 現在の勤務形態



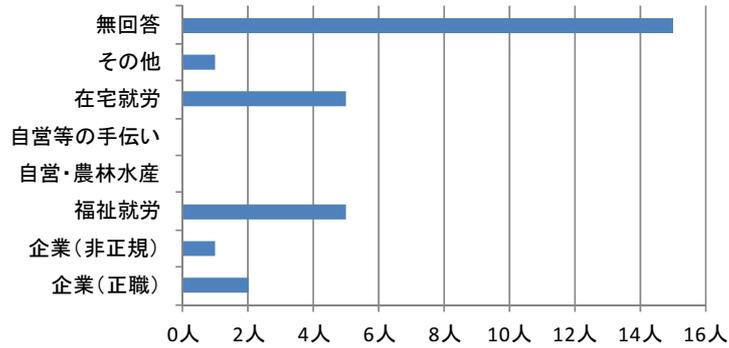
問27 仕事をする上の悩み、困ること



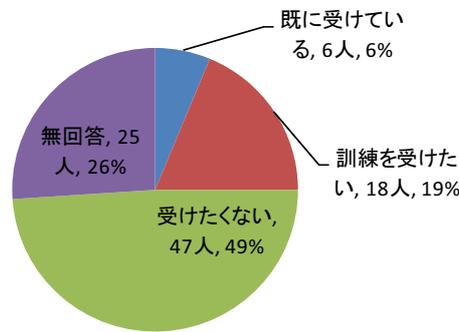
問28 就労の希望



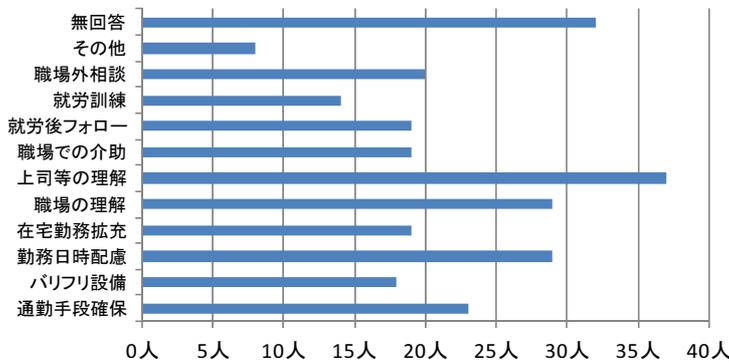
問29 希望する勤務内容



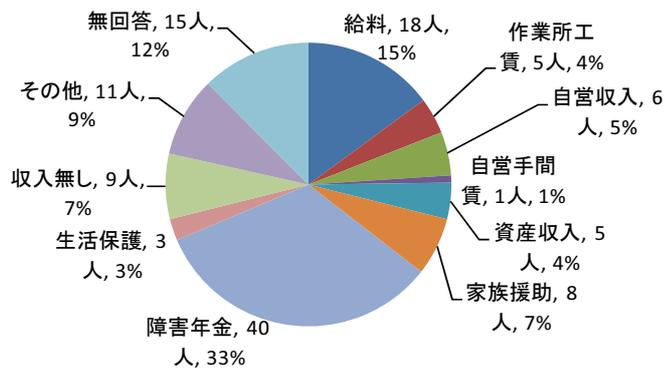
問30 職業訓練の希望



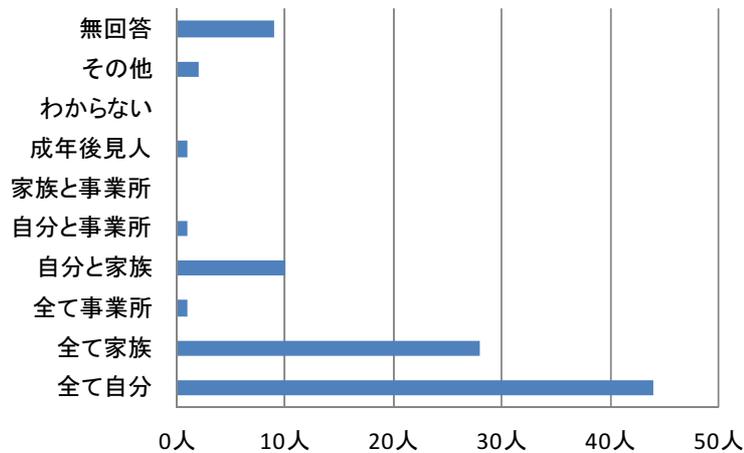
問31 障がい者の就労に必要な支援



問32 定期的な収入の状況

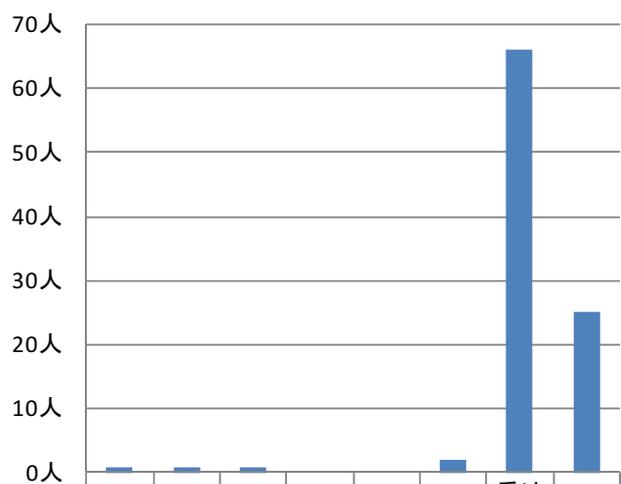


問33 金銭管理の状況



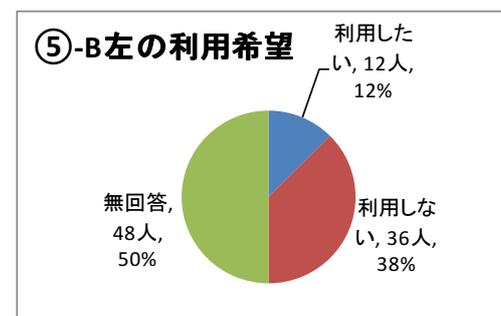
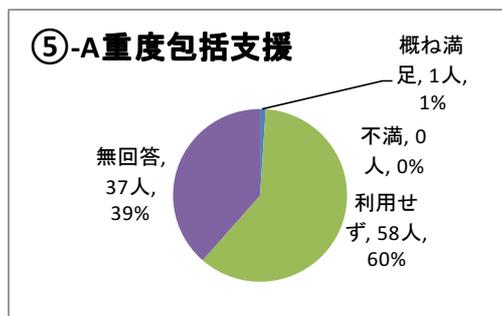
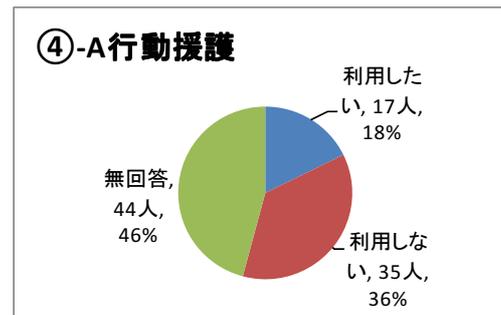
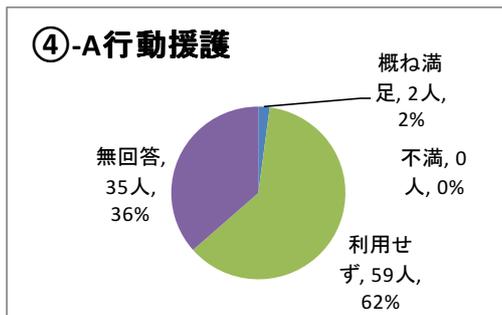
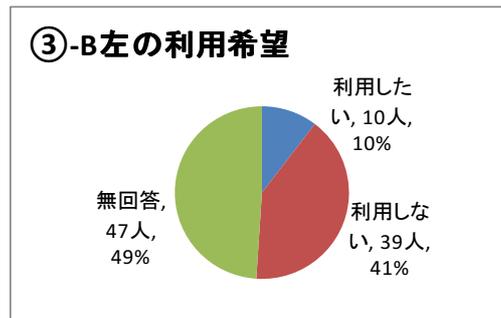
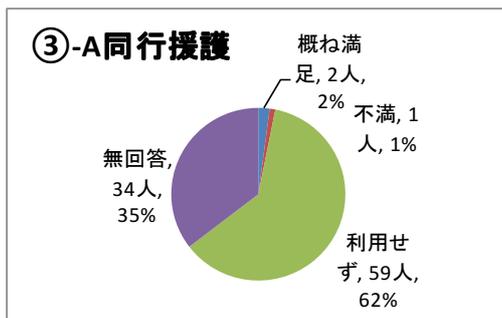
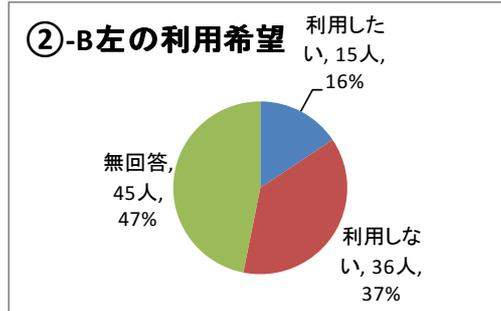
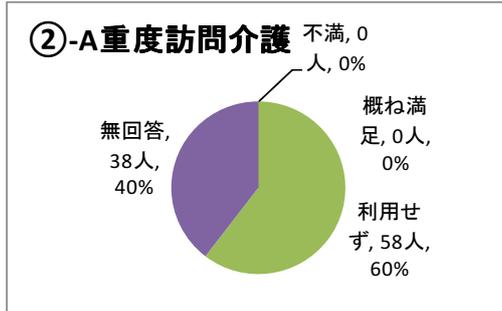
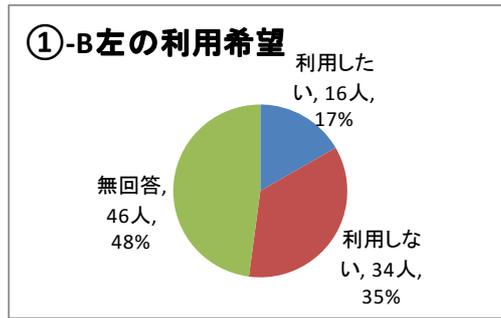
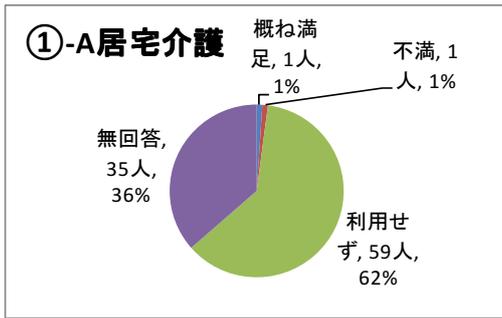
	全て自分	全て家族	全て事業所	自分と家族	自分と事業所	家族と事業所	成年後見人	わからない	その他	無回答
■ 問33 金銭管理の状況	44人	28人	1人	10人	1人	0人	1人	0人	2人	9人

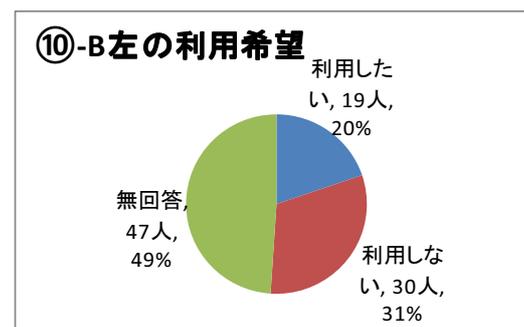
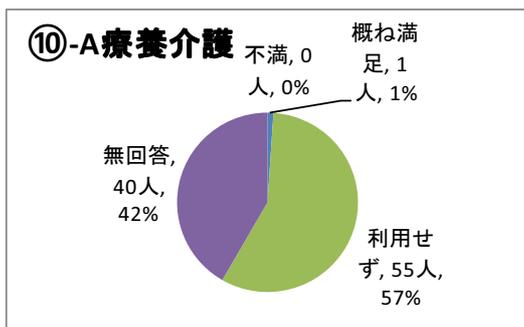
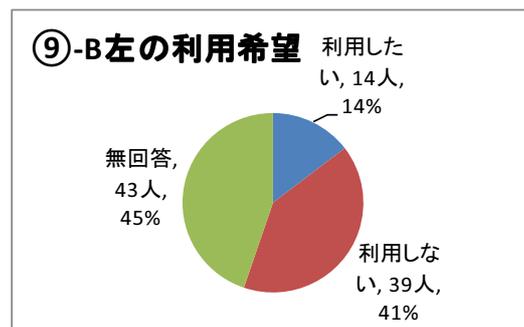
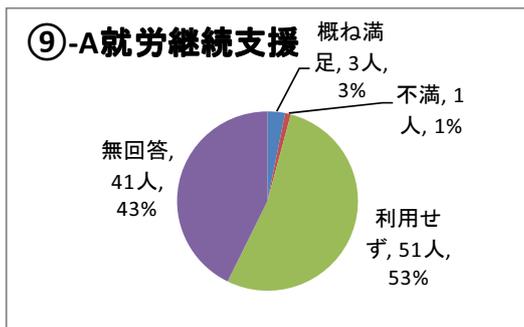
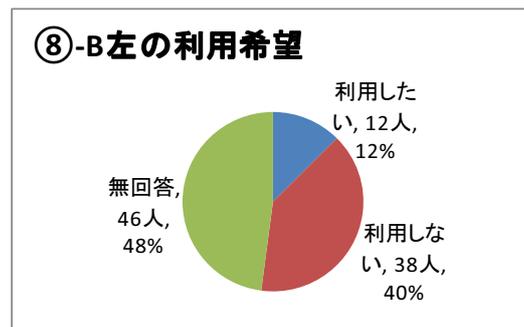
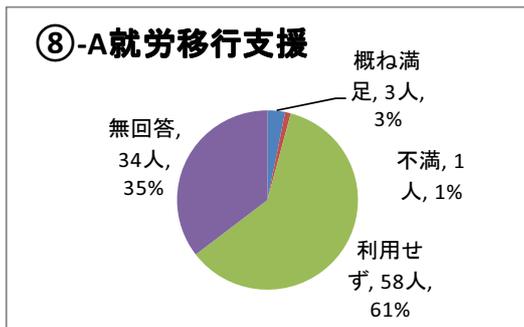
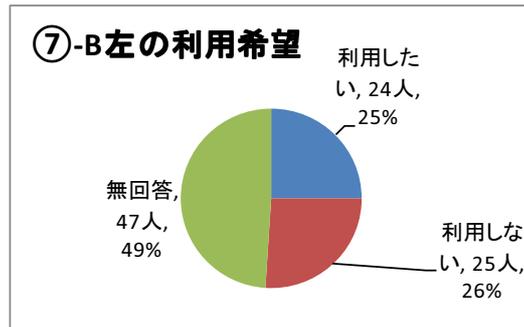
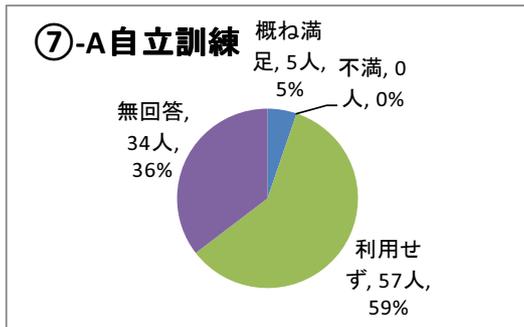
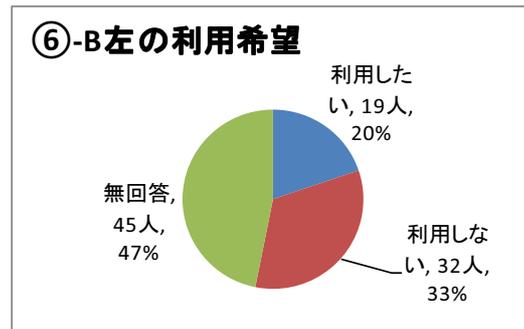
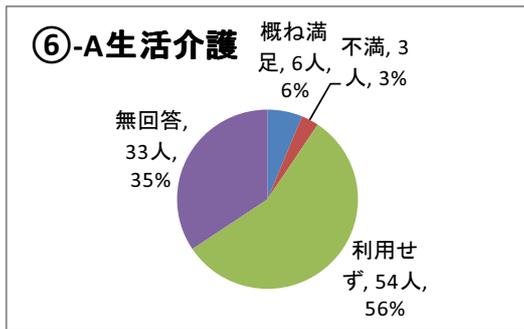
問34 障害支援区分認定の有無

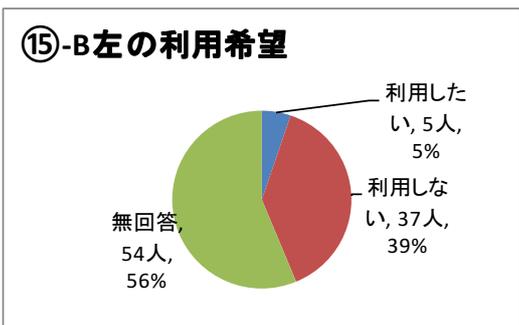
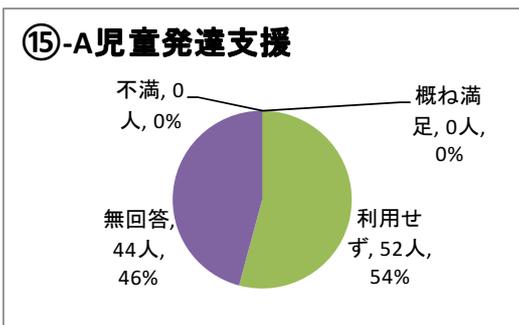
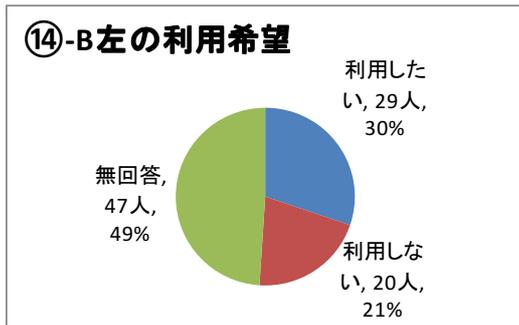
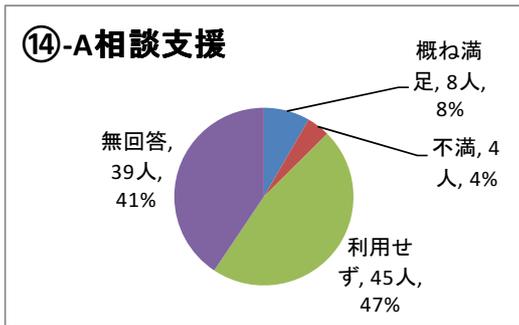
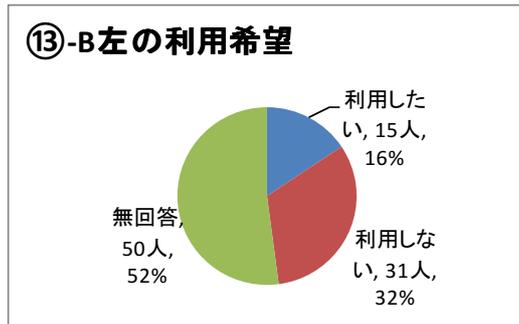
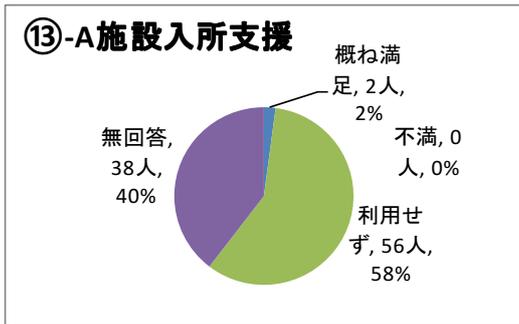
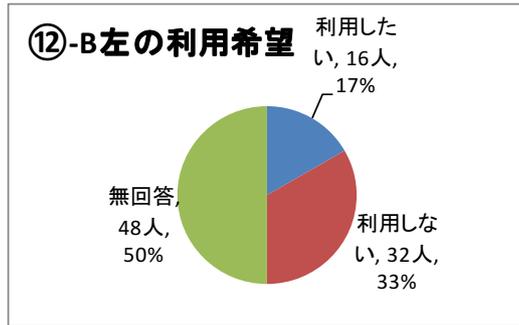
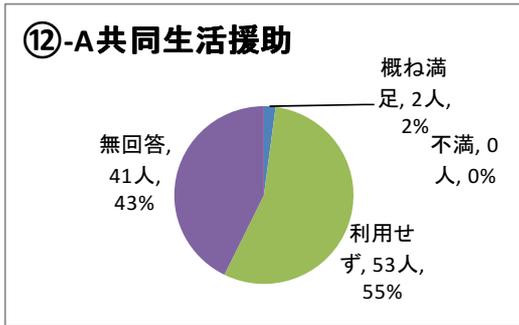
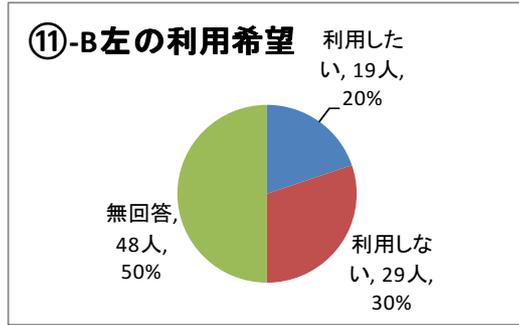
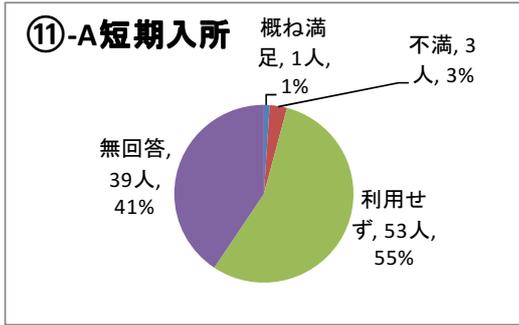


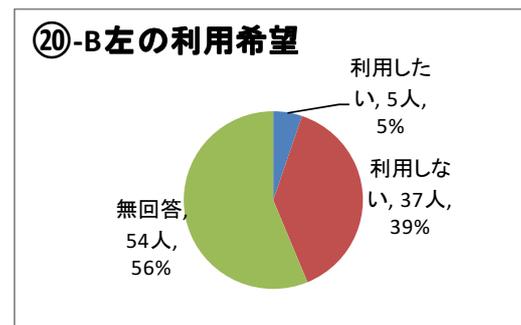
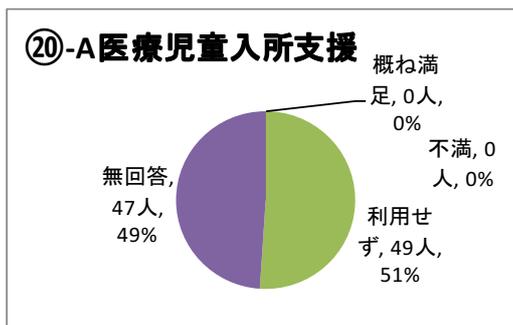
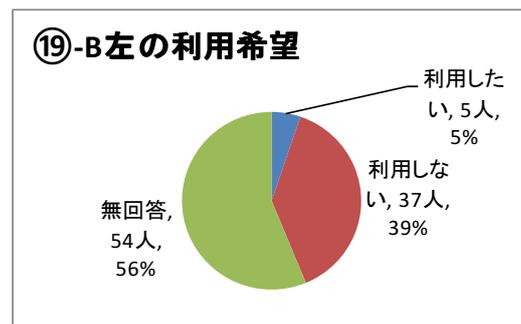
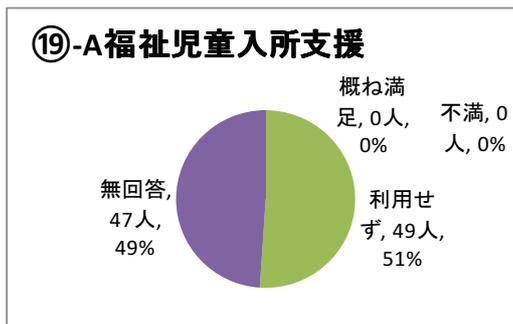
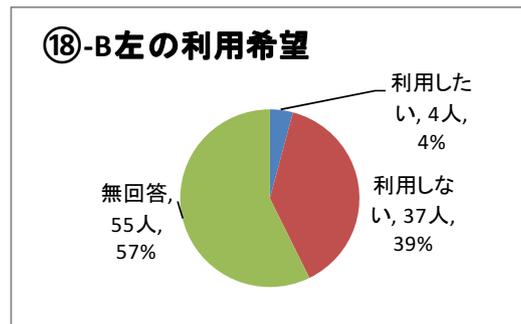
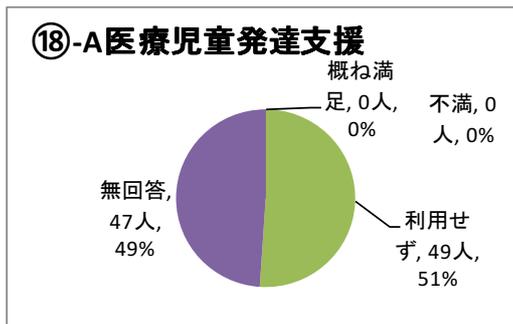
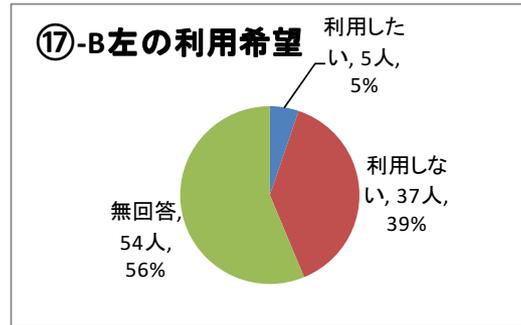
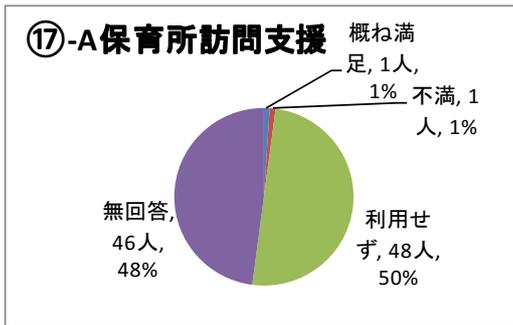
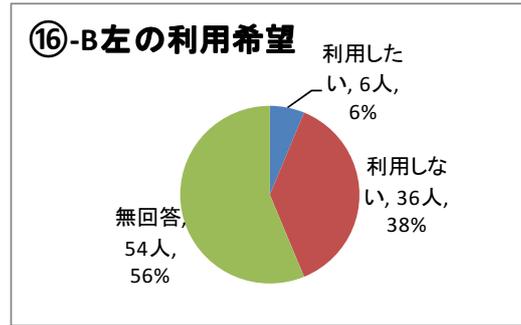
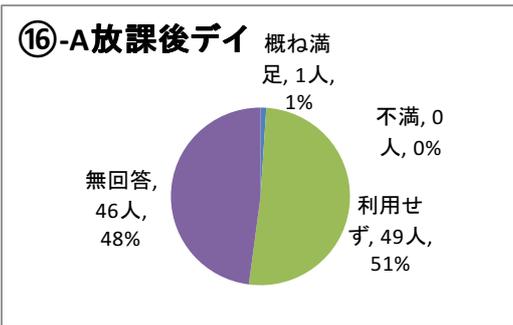
	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	受けていない	無回答
■ 問34 支援区分認定の有無	1人	1人	1人	0人	0人	2人	66人	25人

問35 利用している障害福祉サービス

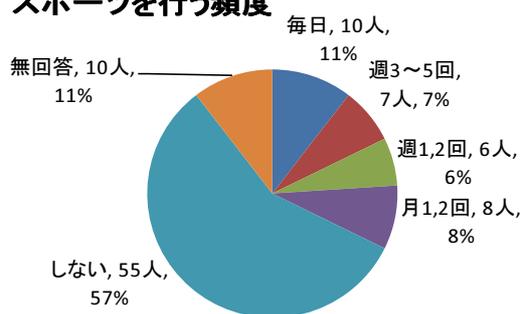




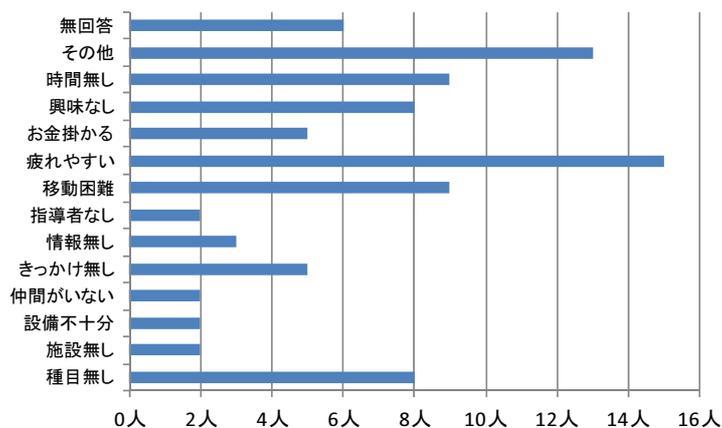




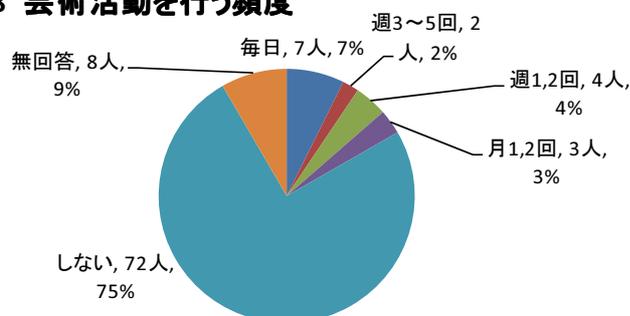
問36 スポーツを行う頻度



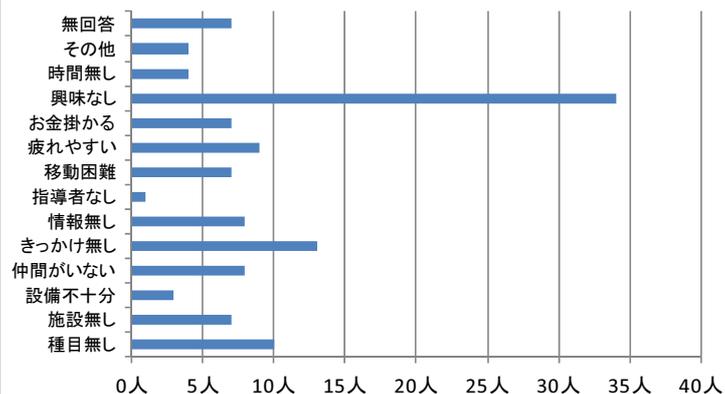
問37 スポーツしない理由



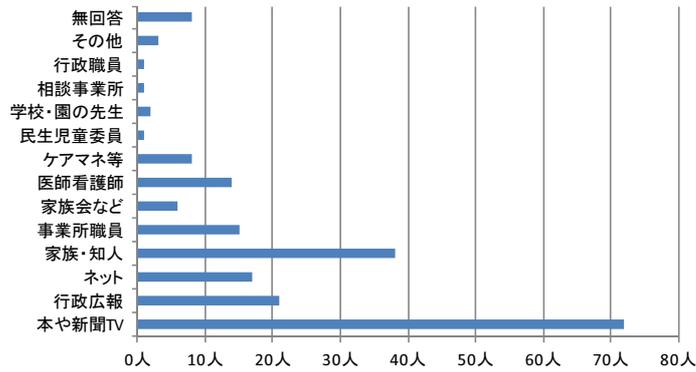
問38 芸術活動を行う頻度



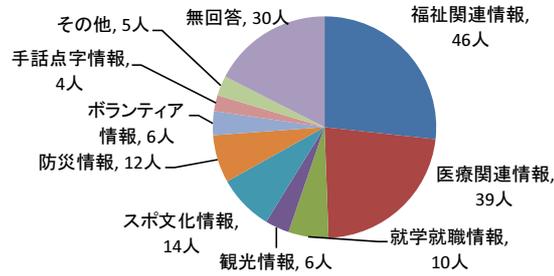
問39 芸術活動しない理由



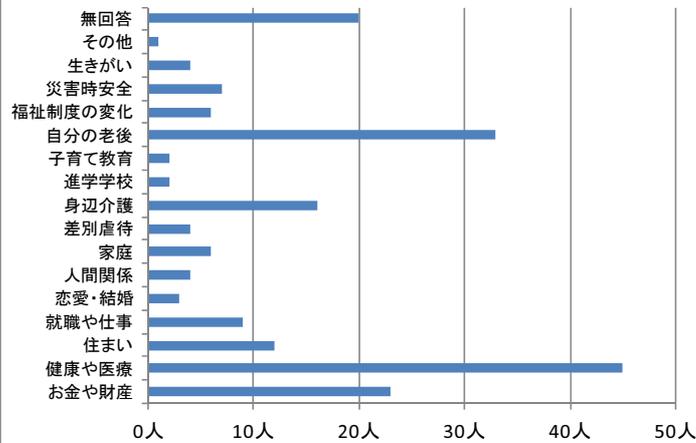
問40 日常情報の入手元



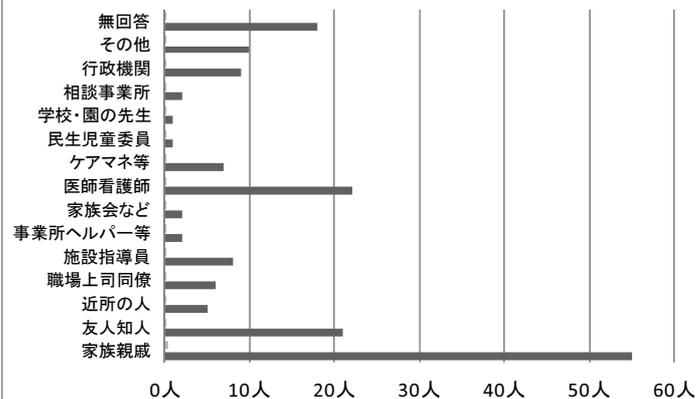
問41 充実してほしい情報



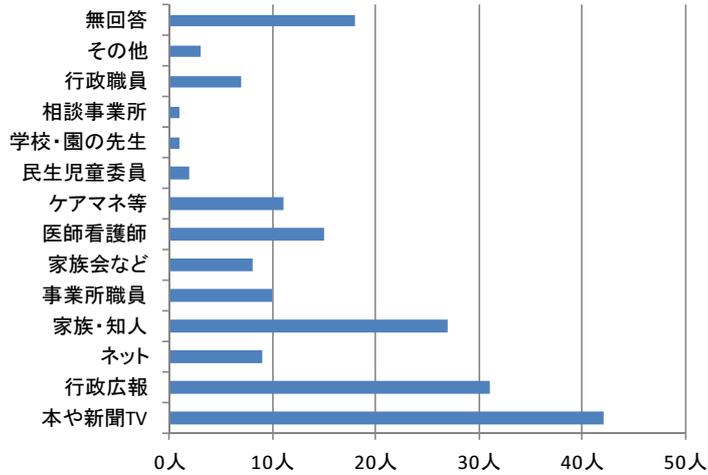
問42 困っていること、悩み



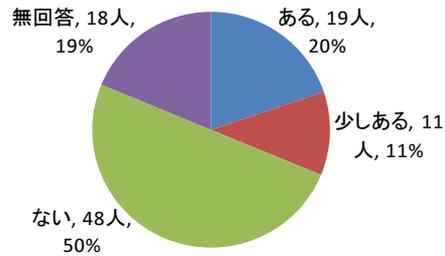
問43 困ったときの相談先



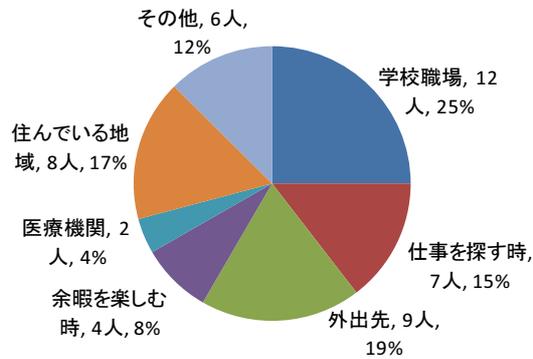
問44 福祉情報の入手先は



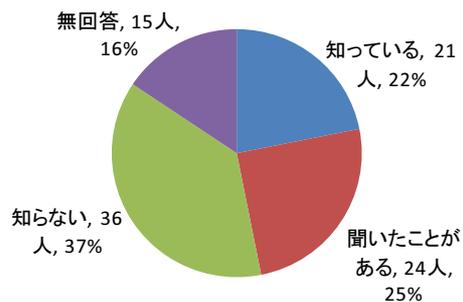
問45 差別体験の有無



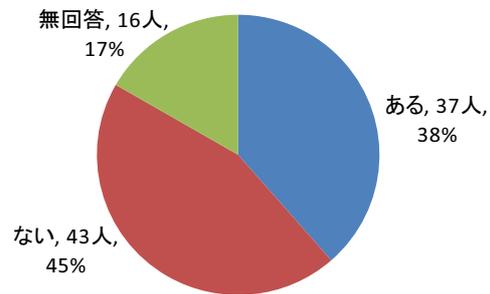
問46 差別を受けた場所は



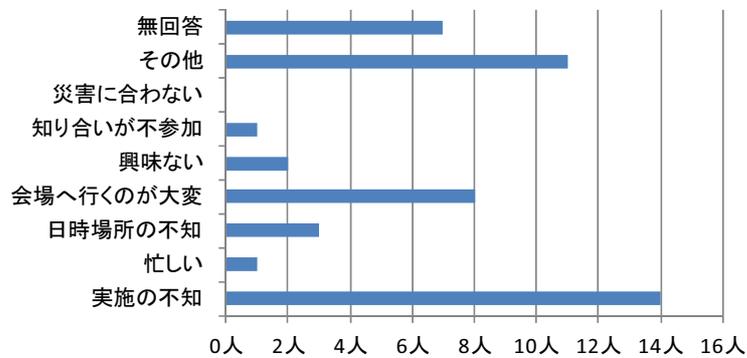
問47 成年後見制度を知っているか



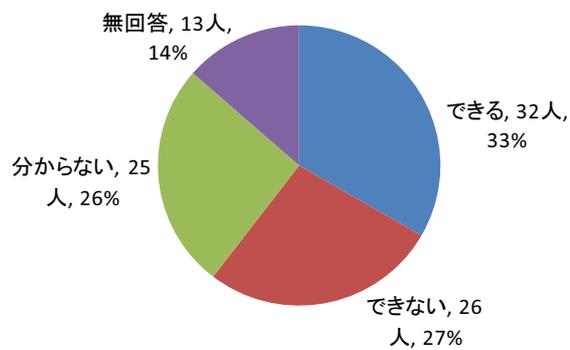
問48 防災訓練への参加したことがあるか



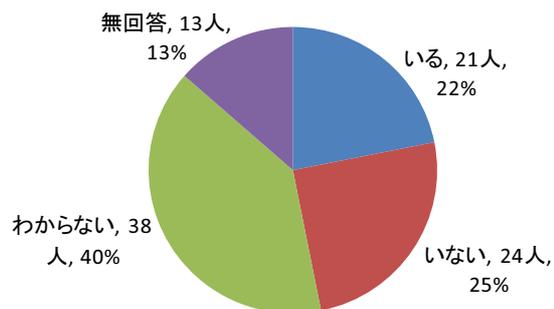
問49 防災訓練に参加しない理由



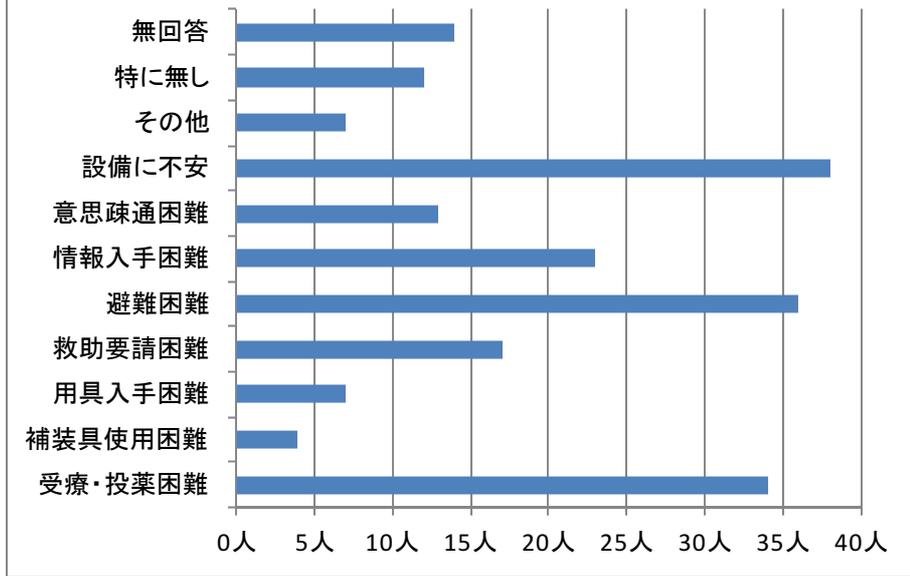
問50 災害時に一人で避難できるか



問51 災害時に助けてくれる人の有無



問52 災害時に困ること



障がい児福祉のニーズ調査の結果の概要（三朝町）

1 調査概要

- ・ **調査目的** 障害児福祉サービス及び子ども・子育て支援事業の利用のニーズの把握
施策に対する要望の把握
- ・ **調査対象** 鳥取県内の障がい者手帳を所持している障がい児の保護者
鳥取県内の障がい児通所支援を利用している障がい児の保護者
- ・ **調査方法** 各市町村担当課から対象者宛に郵送でアンケート用紙を送付して実施
- ・ **調査期間** 平成29年8月上旬～平成29年9月1日

2 調査内容

- (1) **基本情報** 年齢、障がい種別、在住市町村、医療的ケアの要否
- (2) **サービス利用のニーズ** 施設種別ごとの障害児福祉サービス及び子ども・子育て支援事業利用のニーズ
- (3) **施策に対するニーズ** 相談している機関、今後充実を希望する施策

3 回答数等

(回答数) 7 / (発送数) 14 ※回答率50%

4 回答の概要

- ・ 年代による回答数のばらつきは特に認められなかった。
- ・ 障がい種別では発達障がいが多く、次いで知的障がい、肢体不自由の順。
- ・ サービス利用について、「放課後等デイサービス」、「短期入所」は今後利用したいというニーズが高かった。
- ・ 子ども・子育て支援事業の利用ニーズでは、「放課後児童クラブ」を今後利用したいとのニーズが比較的高い傾向にあった。
- ・ 相談相手については「家族」、「学校等」が多いのに対して、「家族会」や「行政窓口」が全くなかった。
- ・ 施策に関するニーズについては、「医療・福祉・教育機関の連携強化」が最も高く、続いて、「身近な地域での障害児通所支援事業所の充実」、「保護者の経済的負担の軽減」の順で高い。

1 調査の概要

1 調査の目的

新たな県障がい児福祉計画及び市町村障がい児福祉計画の作成並びに今後の障がい児福祉施策推進のための資料を得ることを目的とする。

2 実施主体

県及び市町村

3 調査機関

平成29年8月上旬～平成29年9月1日

4 調査対象

鳥取県内の障がい者手帳を所持している障がい児の保護者又は障がい児通所支援を利用している障がい児の保護者

5 調査方法

各市町村担当課から対象者宛に郵送でアンケート用紙を送付して実施

6 調査内容

(1) 基本情報

年齢、障がい種別、在住市町村、医療的ケアの要否など（選択肢及び自由記述で回答）

(2) サービス利用のニーズ

施設種別ごとの障害児福祉サービス及び子ども・子育て支援事業利用のニーズ（選択肢で回答）

(3) 施策等に対するニーズ

相談している機関、今後充実を希望する施策（選択肢及び自由記述で回答）

(4) 困っていること及び県や市町村への要望

現在困っていることや、県や市町村への要望など（自由記述で回答）

7 回答率

アンケート発送件数（A）	1,606
アンケート回収件数（B）	782
回答率（B/A）	48.7%

2 調査結果の概要

1 基本情報

(1) 年齢区分（単位：人）

3歳未満	年少～ 年長	小学1年～ 3年	小学4年～ 6年	中学	高校年齢	無回答
45	141	135	157	133	166	5

(2) 障がい者手帳の種別（単位：人）※重複あり

療育	身体	精神	なし
400	220	40	174

(3) 障がい種別（単位：人）※重複あり

発達	知的	肢体	聴覚	内部	重心	精神	視覚
370	328	133	56	49	33	21	16

(4) 医療的ケアの必要な児童数

合計	肢体不自由又は重症心身障がいの有無	
	あり	なし
80	58	22

2 障害児福祉サービス及び子ども・子育て支援事業の利用ニーズ

(1) 結果の概要

サービス種別		A: 現在利用あり・ 今後利用したい	B: 現在利用なし・ 今後利用したい	C: 現在利用あり・ 今後利用しない	今後利用ニーズ (A+B-C)	新規利用ニーズ (B-C)
通 所 支 援	児童発達支援	116	50	1	165	49
	医療型児童発達支援	26	14	2	38	12
	放課後等デイサービス	238	167	4	401	163
	保育所等訪問支援	60	119	3	176	116
	居宅型児童発達支援	—	—	—	—	75*
支 入 援 所	福祉型児童入所支援	13	103	1	115	102
	医療型児童入所支援	7	54	2	59	52
シ ョ ト ヨ	福祉型ショートステイ	25	171	0	196	171
	医療型ショートステイ	14	58	0	72	58
子 子 育 て も 支 援	1号認定(教育)	17	32	3	46	29
	2号認定(保育)	41	29	1	69	28
	3号認定(乳児保育)	3	13	1	15	12
	放課後児童クラブ	33	136	2	167	134

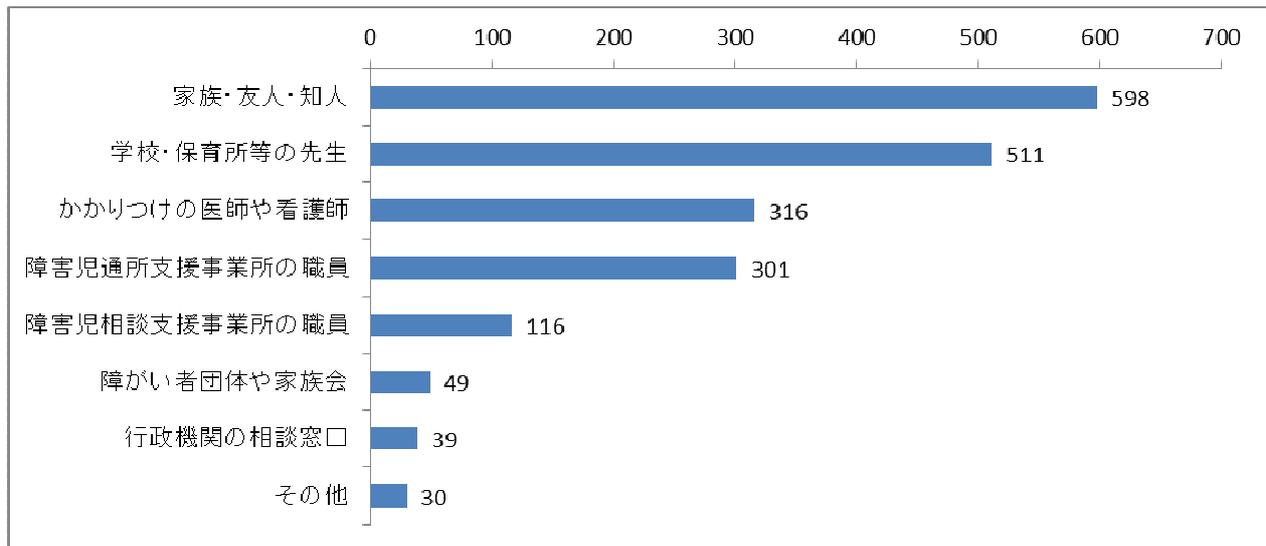
*今後利用したいを選んだ人の数

(2) 結果の分析

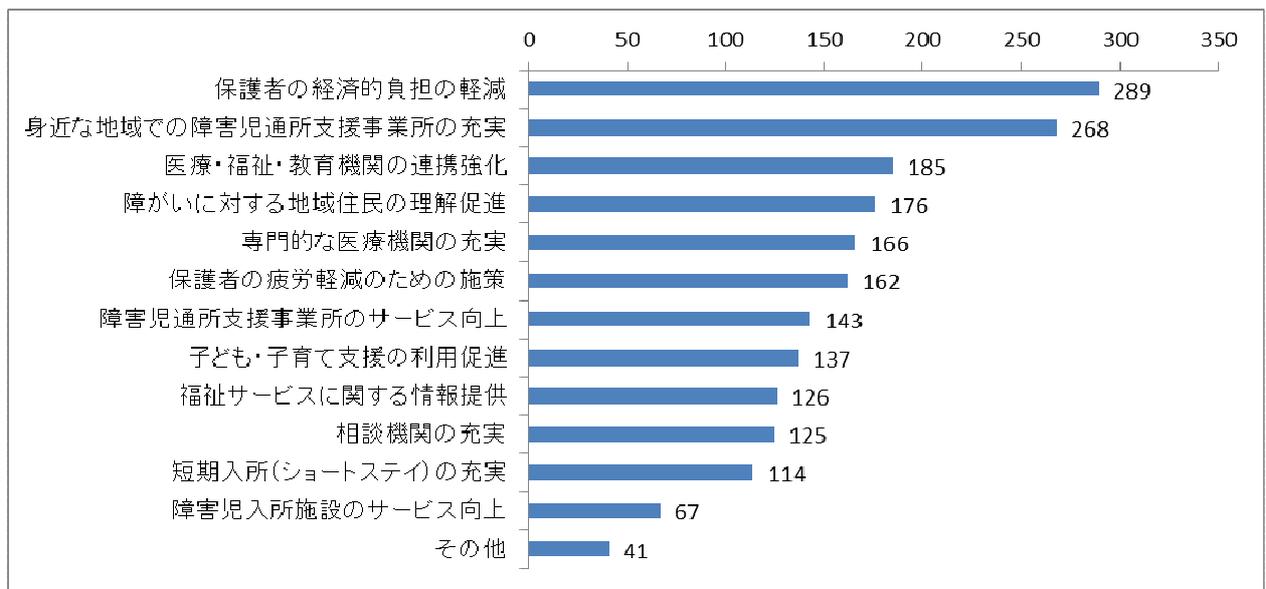
- ・サービス利用のニーズについて、特に「放課後等デイサービス」、「保育所等訪問支援」、「障害児入所支援」及び「短期入所」を今後利用したいというニーズが高かった。
- ・子ども・子育て支援事業の利用ニーズでは、特に「放課後児童クラブ」を今後利用したいとのニーズが高かった。
- ・現在利用していないサービスについても、全般的に今後利用したいとの希望が多く、今後はより一層、各サービスで受入体制を整備していく必要がある。

3 施策等に対するニーズ

(1) 子どものことを相談している人や機関（よく相談している人や機関を3つまで選択）



(2) 施策に対するニーズについて（特に望む施策を3つまで選択）



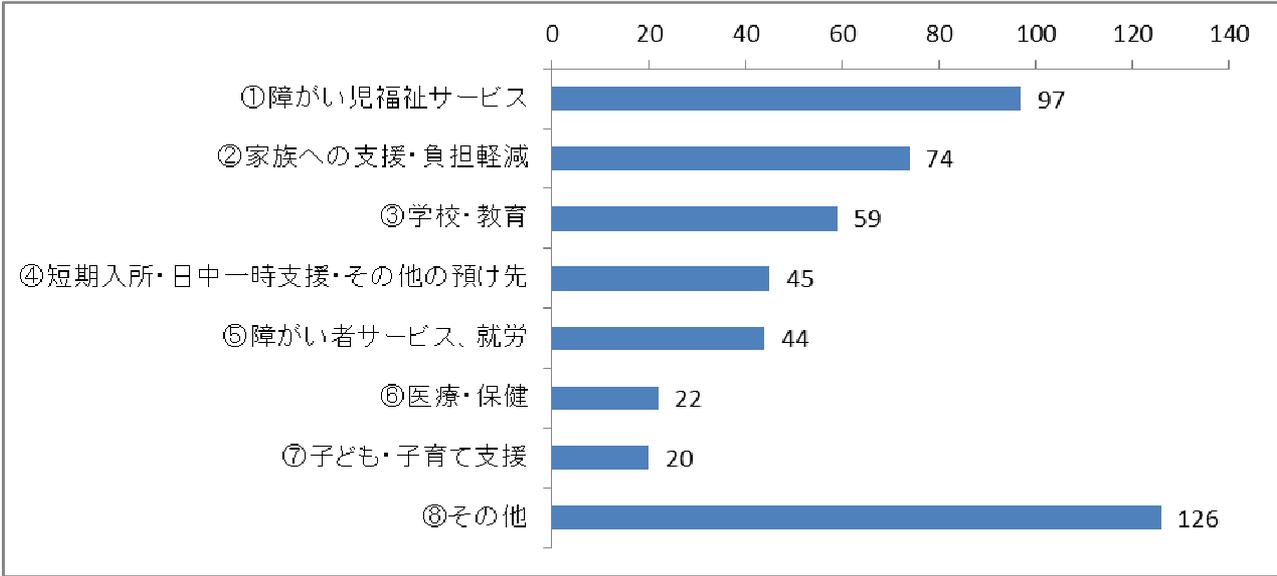
(3) 結果の分析

- ・相談相手については「家族」、「学校等」、「医療」、「通所事業所」が多かった。一方、障害児相談支援事業所は比較的少なく、今後は障害児相談支援事業所の質と量の確保を図る必要がある。
- ・施策に関するニーズについては、「経済負担の軽減」と「身近な地域での障害児通所支援事業所の充実」が他の項目よりも高く、これらの施策のより一層の推進が求められているものと考えられる。また他の10項目についても概ね100件以上の施策の充実を望む声があることから、これらの施策の推進についても同様に行っていく必要がある。
- ・その他の項目では、就労支援や教育についての施策の推進を望む記述が多かった。

4 困っていること及び県や市町村への要望など

782件のアンケート回収件数のうち、323件の自由記述による回答があった。その内容を項目ごとに分類し、分析を行った（重複あり）。

(1) 分類項目及び件数



(2) 分類項目ごとの内容詳細及び件数

分類項目	内容詳細及び件数								
①障がい児福祉サービス	通所支援施設の受け入れ体制充実(施設数増、受入回数増、長期待待時の受入先確保、看護師確保など)	通所支援施設のサービス提供時間の充実(開所・閉所時間の延長、日・祝日の利用など)	通所支援施設の支援内容の充実(職員の専門性向上、リハビリテーションの実施、入浴サービスの実施など)	身近に利用できる通所支援施設の充実	送迎支援の充実	医ケア児の受入先の不足	身近に利用できる入所施設の充実		
	34	21	20	7	7	7	1		
②家族への支援・負担軽減	保護者の就労(預け先がないか、時間の制約があり就労が制限されるなど)	経済負担の軽減(手当の増額、助成の増額など)	親の会など情報交換のや交流の場の推進	きょうだいへの支援	保護者の疲労軽減	子どもとの関わり方の悩み			
	26	24	10	6	5	3			
③学校・教育	教員の専門性向上	学校生活や学校選択への要望(発達障がい児や医療的ケア児への学校での合理的配慮など)	学校への送迎支援の充実	通級指導教室の充実(設置数の増、支援時間の増など)	その他(養護学校整備、進学・就労支援の充実、心理士配置の充実、学校のバリアフリー化、聾学校の言語聴覚士配置など)				
	16	12	11	7	13				
④短期入所・日中一時支援・その他の預け先	短期入所の充実(事業所の確保、支援内容の向上など)	その他預け先の不足(預け先が特定されていないもの)	医ケア児の預け先(施設が特定されていないもの)	日中一時支援の充実(事業所の確保、支援内容向上など)					
	23	12	7	3					
⑤障がい者サービス・就労	就労先及び就労支援の充実	グループホームや入所施設の受入体制充実(数の増、親亡き後の受入など)	生活介護の受入体制の充実(数の増など)	その他(居宅介護、行動支援の充実など)					
	19	14	7	4					
⑥医療・保健	医療機関充実(脳神経小児科などの専門医療機関の確保、専門医に日常的に診察・相談できる体制の確保など)	その他(訪問看護の充実、健診時間の配慮など)							
	19	3							
⑦子ども・子育て支援	保育園、幼稚園、こども園職員の専門性向上	保育園、幼稚園、こども園の受入先確保	障害児保育の充実	病児保育の充実	保育所等への看護師配置	放課後児童クラブの受入先確保			
	6	5	3	3	2	1			
⑧その他	行政機関の対応改善(手続きの簡素化、HPや書面等でのわかりやすい情報提供、行政職員の理解促進など)	相談できる機関や専門家の充実(特定していないもの)	地域住民の理解の推進(理解啓発の推進、差別の解消など)	地域設備の改善等(こどもの遊び場の増、地域のバリアフリー化、災害時の避難所の設備充実、障がい者用の駐車スペースの確保など)	機関連携(医療、教育、福祉、行政の連携)	療育機関の充実(機関を特定していないもの)	アンケート内容不満	現状満足	その他(軽度障がいへの支援拡充、学習塾の充実など)
	30	20	18	11	9	8	7	5	18

(3) 結果の分析

- ・分類項目では「障害児福祉サービス」「家族への支援・負担軽減」に分類される内容が多かった。また、4番目に多く分類された項目が「短期入所・日中一時支援・その他の預け先」だった。このような内容に分類される意見には、「障害児通所支援事業所の受入先や受入回数の少なさにより、保護者の就労が制限され、経済的な負担が大きい」「短期入所の受入先や、こどもを預ける場がなく、保護者の疲労がたまる」といったように相互に繋がっているものが見られた。今後はより一層、障害児通所支援事業所の受入体制の充実と、短期入所をはじめとする、保護者のレスパイトサービスの充実を図ることで、障がい児及びその保護者が地域で安定した生活を送るための基盤整備が必要と考える。
- ・また、5番目に多く分類された項目は「障がい者サービス・就労」であり、多くの保護者が子どもの将来を心配していることがうかがわれた。具体的には、安定した就労先の確保、生活介護事業所の定員確保、グループホームの受入体制の充実を要望する意見が多く、障がい児の将来を意識した、切れ間のない支援体制の構築や関係機関の連携の推進が望まれる。
- ・その他の項目についても、関係部局と連携し、必要な施策を推進していくことが望まれる。